

モデル地域の概要(茨城県石岡市)

地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 万葉の昔から親しまれた名峰「筑波山」のふもと、わが国第二の湖「霞ヶ浦」のほとりにある石岡市は、東京から70キロ圏内にありながら、豊かな自然と歴史的な遺産が数多く残るまちです。 ○ 観光としては、関東三大祭といわれている「石岡のおまつり」や花のテーマパークである茨城県フラワーパーク、常陸風土記の丘、やさと温泉ゆりの郷、つくばねオートキャンプ場等多くの観光施設があります。 ○ また、最近では、市内に100棟以上残されている筑波流の茅葺民家や昭和レトロのまちなか散策が新たな観光資源として注目されているところです。 ○ 入込み観光客数は、平成18年度は838,600人で、TXの開通により筑波山への観光客が増えている中で、増加傾向にはあるが、県全体の増加率と比べると低い状況にあります。 ○ 石岡市としては、人口減少、産業が停滞している状況の中で、観光産業を活性化し、交流や賑わいを創出することが求められています。
「観光地域プロデューサー」を必要とする理由	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成18年度の入込み観光客数は、838,600人と毎年少しずつ増えてきているが、県全体の増加率から比べると低く、また、約半数が9月に行われる石岡のおまつりの客で年間を通した観光客の誘客がされていない。 ○ 本市には、寺社仏閣、歴史・文化、農業・体験、テーマパーク、スカイスポーツ、観光果樹、自然、温泉、おまつり、イベントと多様で豊富な地域資源があるが、それを連携させ多くの観光客を呼び込む旅行商品の企画力、営業力、情報発信の方法等のノウハウを持っていない。 ○ 本市のイメージアンケートを行なったところ県外居住者で約9割、県内居住者でも約4割の人が「知らない・イメージが無い」という結果であった。これらを踏まえ本市の知名度アップを図らなければならない。 ○ 本市には、商業、観光、農林業等の各種団体があり、様々な方面から観光振興やまちの活性化の取り組みを行っているが、団体間で連携を取りながらより一層の効果をえられるような体制づくりが必要である。 ○ これらを踏まえ、外部の目線から観光資源の発掘、旅行商品の造成、営業力、情報発信の方法等のノウハウを持った観光地域プロデューサーが必要である。
「観光地域プロデューサー」が行う業務	<ul style="list-style-type: none"> ○ フルーツライン周辺地区の里山の文化・景観・歴史・環境を活用した交流・体験観光の旅行商品化及び営業力の指導(ネット、PI、普及啓発など)。 ○ 旧朝日小学校を活用した体験メニューの検討、受入れ体制の構築 ○ 中心市街地の「歴史・文化を活かしたまちなか観光の空間演出や旅行商品化のプランニングと活動 ○ 周辺市との広域周遊観光ルートの開発と商品化のプランニングと活動 ○ 地域の特産品を利用した石岡のブランドづくりのプランニングと活動 ○ 観光ボランティアとの連携により、観光客へのおもてなし向上の指導 ○ 石岡市の知名度アップの方策の検討 ○ 情報発信力・PR向上への指導 ○ 外国人観光客受入れ体制づくりへの助言 ○ 誘客のための営業と営業ノウハウの伝授
選考方法	<p>地域の特色を活かした旅行商品の造成(特に体験型旅行商品の造成)や情報発信、営業活動のノウハウを重点要素として観光地域プロデューサーを選考したい。</p>

「観光地域プロデューサー」の配属先	石岡市観光協会 〒315-8640 茨城県石岡市石岡一丁目1番地1
給与の支払者	石岡市観光協会
給与等の額	月額15万円
勤務形態、就業時間等	就 業 日:週の中の任意の2日(別途協議のうえ、曜日を決定) 就業時間:原則として午前9時～午後6時まで(実働8時間)但し、協議のうえ、季節により時間を変更することも可能とする。
雇用期間	原則として2年間(平成20～21年度)その後は、1年間ごとに延長することも可能とする。
その他	○配属先における指揮命令系統 観光協会会長－経済部長－商工観光課長－観光地域プロデューサー (経済部長・商工観光課長は、市より観光協会事務局の職務専念義務免除を受けている。) ○サポート体制 市、観光協会、旧朝日小学校利活用検討委員会(市、各種団体の代表者、地元の代表者から構成されている)が一体となって観光地域プロデューサーをバックアップする。